



## 研究者から理事長に

理事長 片山 恒雄（1939年生まれ 東京都出身）

今回は、トップとして8年間防災科研を見守ってきた片山恒雄理事長にお話を伺いました。

### ■ 恵まれた時代でもあった

私の学生時代は戦後間もない復興期で、全てが右肩上がりでした。ビルや道路、色々な構造物が次々と作られる時代でした。その中でも、ダムに非常に興味を持っており、ダムが作りたくて土木工学の道に進みました。

1970～80年代の高度成長期になると、さらに多くの建物が作られ、ダム、橋、高速道路、水道などのインフラも整備されました。その頃は、民間企業も景気が良かったので、古い建物を倒すという大掛かりな実験なども数多く行われました。この時代に耐震技術は飛躍的に進んだと思います。その頃、私は中央大学や東京大学で教鞭をとっていました。

### ■ 崩れ去った定説、そして今...

しかし、10年前の阪神・淡路大震災で倒れるはずのないと思われていた

建物が無残に崩れ落ちた。当時の学界の常識はくつがえされ、私が生徒に教えていたことは何だったのだろうと悩みました。そのような時に防災科研の所長就任の話があり、即答で就くことに決めました。研究所として、また指揮する立場として、できること、変えていけることがあると思ったからです。

それから8年、最近の防災科研は活気が出てきた。また、研究者達が協力して大きな仕事をやろうという意気込みと風通しの良い職場になりつつあると感じています。これには、特別研究員・技術員やEDM・川崎ラボラトリーの契約研究員などが90人近くにもなったことが寄与していると思います。

私の任期もあと2年になりましたが、今以上に雰囲気良く働きやすい職場になることと、防災科研は小さな研究所ですが「山椒は小粒でピリリと辛い」世界一の研究の場になるよう努力していきますので、今後ともご支援をお願いいたします。

編集・発行／  独立行政法人 防災科学技術研究所

〒305-0006 茨城県つくば市天王台3-1 ☎029-851-1611(代)

企画課直通 ☎029-863-7789 Fax.029-851-1622

E-mail ◆plansec@bosai.go.jp インターネット ◆http://www.bosai.go.jp

発行日／2004.7.1